

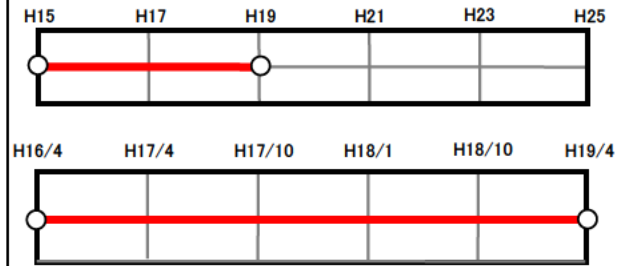
土砂移動の連続性を確保する方策検討

●具体的な整備内容

・土砂移動の上下流バランスを考慮した土砂移動の連続性を確保する方策の検討を行う。

●スケジュール

— 検討

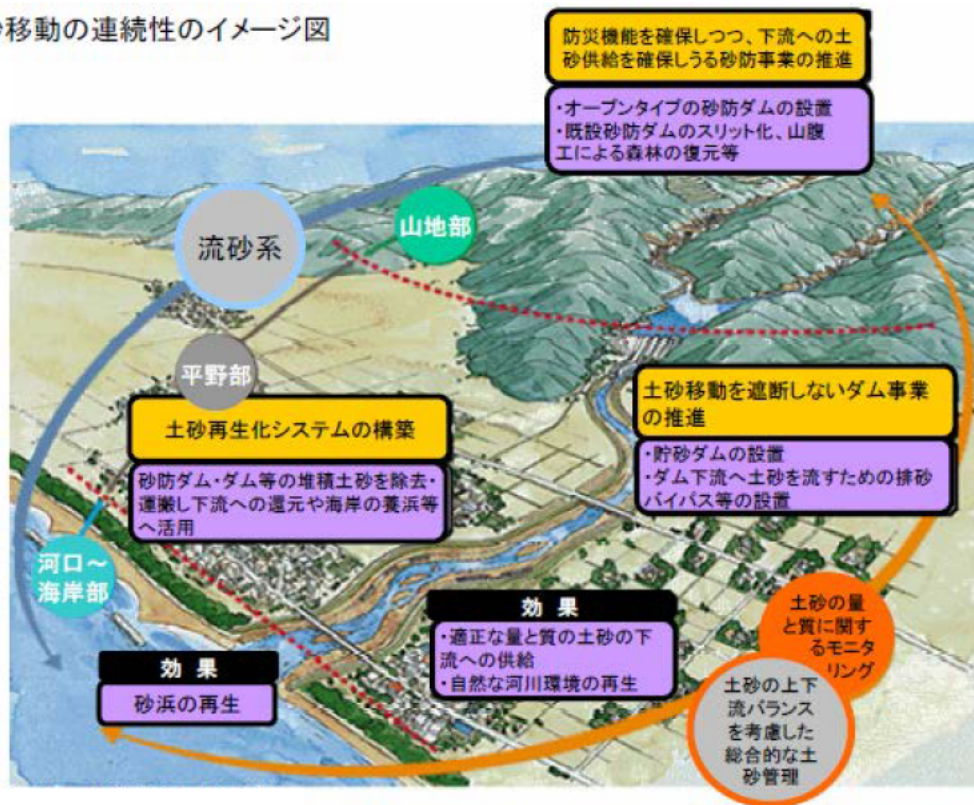


●整備効果

ダム等の河川横断工作物による土砂移動の連続性の遮断を解消することで、ダム下流への土砂供給が図られ、河床形状や河床材料の復元が期待でき、自然な河川環境の再生が図られる。

また、山間地域～海岸までを含めた流砂系全体のスケールによる総合土砂管理計画を検討することにより、砂浜の再生にも寄与する。

●土砂移動の連続性のイメージ図



●提案理由(代替案含む)

大規模な人工構造物であるダムは、大量の水を貯めると同時に大量の土砂を貯め、流砂系における土砂移動の連続性を遮断し、下流への土砂供給量を減少させる施設となっている。

土砂移動の連続性を進める上では、ダムの目的を損なうことなくダムから土砂を排出し、適正に下流に土砂を流すための施策を検討することが必要不可欠である。

よって、水系全体の土砂移動のバランスを回復し、かつ効率的な対応を図ることを目的とした水系一環総合土砂管理計画を検討する。

土砂移動の連続性を確保する方策検討

●委員会等からの意見

土砂移動の障害を軽減するための方策の検討は、土砂移動の連続性の確保を基本として検討を進める必要がある。

「総合土砂管理方策の検討」を取り上げたことは時宜を得たものであり、成果に期待する。とくに、ダム内の堆積土砂除去作業時の濁水対策、生物の生息環境を破壊しないダム土砂排除方法についての検討が必要である。

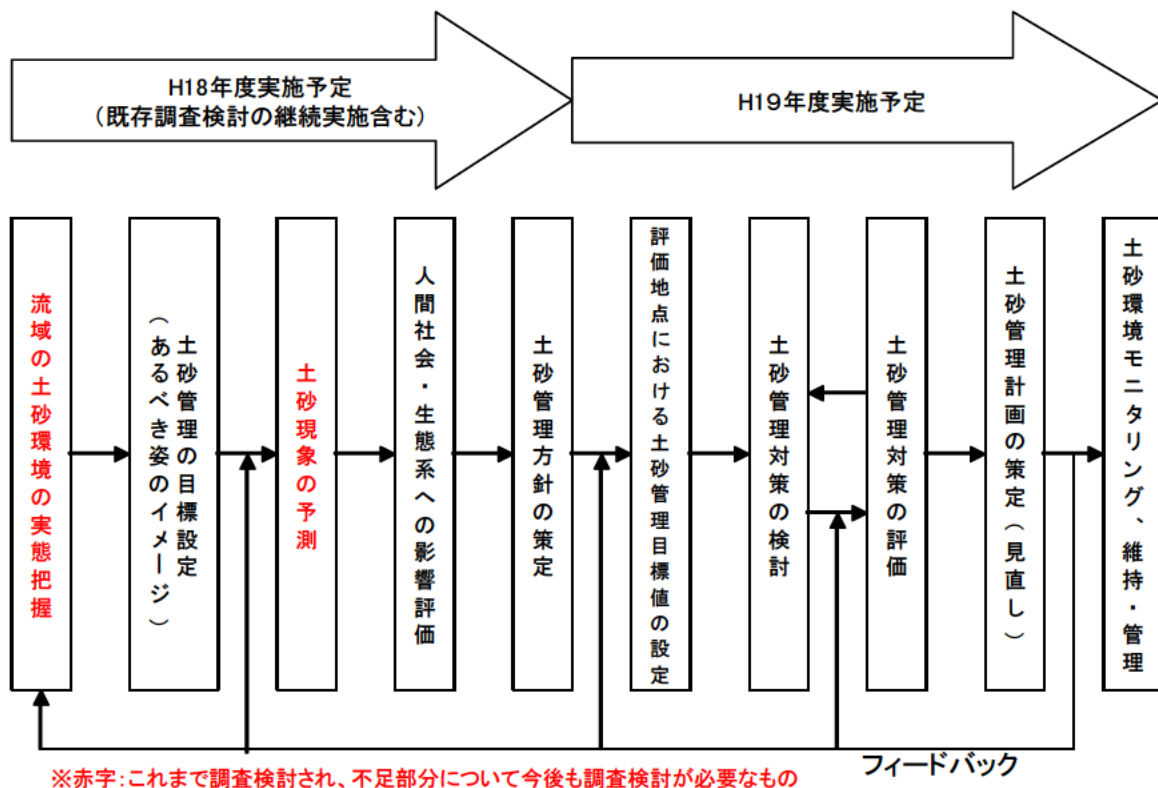
土砂移動の連続性を確保するためのさまざまな手法、代替案の検討が必要である。検討にあたっては、河川全体の土砂収支を重視し、具体的方策、費用、期待される効果などを明らかにする必要がある。

●進捗状況

- ・H16～H17にかけて「淀川水系ダム等における土砂移動の連続性に関する検討会」を開催し、淀川水系における土砂管理に関する今後の検討課題を整理した。
- ・平成18年1月「ダム排砂技術検討会」発足
- ・平成18年3月「淀川水系総合土砂管理検討委員会」発足
(※既設ダム・事業中ダムを対象に検討)

●進捗状況

淀川水系総合土砂管理検討に関する既往の検討内容と今後の検討課題
(第1回淀川水系総合土砂管理検討委員会資料より)



●今後の見通し

淀川水系総合土砂管理検討委員会において引き続き検討し、実効性ある土砂管理対策工法について具体的に検討する。